

## 浸透固化処理工法による供用中の岸壁の液状化対策事例

林 健太郎<sup>1)</sup>, 平木 正男<sup>2)</sup>, 舘山 大樹<sup>2)</sup>, 原田 智弘<sup>2)</sup>

### Application of Permeable Grouting Method for Soil Improvement beneath Port Structures

Kentaro Hayashi<sup>1)</sup>, Masao Hiraki<sup>2)</sup>, Hiroki Tateyama<sup>2)</sup> and Tomohiro Harada<sup>2)</sup>

#### ■ 要 旨 ■

本稿は、浸透固化処理工法の施工方法および出来形に関する模型実験を紹介するとともに、使用中の岸壁の液状化対策に浸透固化処理工法が適用された事例を紹介するものである。模型実験では、2m×2m×2mの大型土層を用いた注入実験を行い、注入位置と周辺領域で注入時の圧力の測定を行い、周辺構造物への影響について検討を行っている。また、適用例の紹介では、当初、岸壁の使用を一旦止めて耐震補強を行う計画であったが、岸壁使用者の事情から岸壁を供用しながらの施工に変更された事例を紹介している。この事例では、当初設計の軽量盛土工法から、岸壁の荷役作業への影響を最小にする施工法として浸透固化処理工法が選択された。本事例では、荷役作業に与える影響を減らすために施工上の工夫を行い、岸壁を供用しながら液状化対策を実施している。

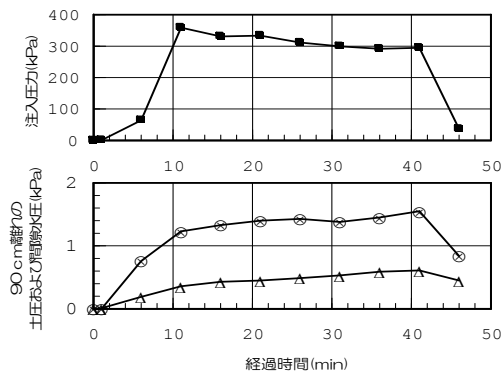


図-1 注入圧力の経時変化

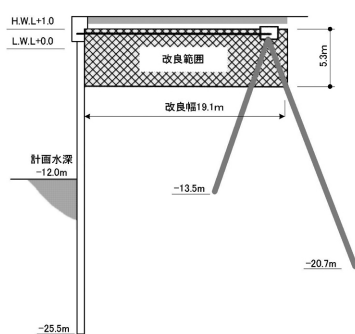


図-2 施工断面図

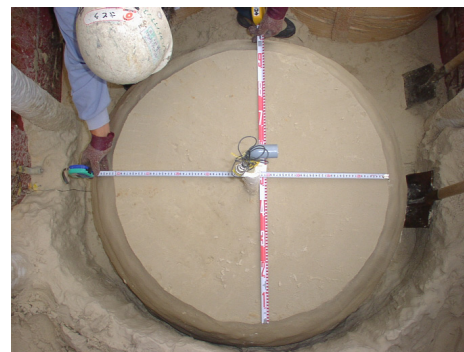


写真-1 土槽解体時の出来形



写真-2 既設岸壁への適用状況

1) 技術研究所  
2) 東北支店

\* 土と基礎, Vol.56 No.3 No.602(2008)

地盤工学会, pp.22-25, 掲載